

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	総合政策部	
	17067	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立事業	課名	政策課 政策調整G	
	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上	財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	05:広域的な交通拠点性の強化		款	13:諸支出金
	施策の方向	01:リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進		項	01:基金費
戦略プロジェクト	-	目		03:リニア中央新幹線亀山駅整備基金費	
事業予定期間	H 8 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等			

目的・概要	対象	市民
	目的	リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積み立てを行い、リニア中央新幹線の市内における停車駅の整備事業を展開する際の財源を確保する。
概要		リニア中央新幹線亀山駅整備基金の計画的な積み立てを行う。なお、積立額は、毎年度の財政状況を勘案し、適切な額を積み立てることとする。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立	リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立	リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立	
	年度実績	○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立 50,371千円			
事業費	計画額	事業費	50,000千円	50,000千円	50,000千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	3,470千円	3,470千円	3,470千円
	予算額	事業費	50,371千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	2,211千円		
	決算額	事業費	50,371千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	2,211千円		
人件費	一般財源	46,530千円	46,530千円	46,530千円	
	事業費	50,371千円	0千円	0千円	
	国庫支出金				
	県支出金				
総人件費	一般職員	78千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.01	0千円	0千円	
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
	総コスト(+)	50,449千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立額	計画値 50,000	50,000	50,000
			実績値 50,371		
			単位 千円	千円	千円
	名称	リニア中央新幹線亀山駅整備基金残高	計画値 1,750,000	1,800,000	1,850,000
		平成29年度末残高: 1,651,063千円	実績値 1,752,125		
			単位 千円	千円	千円
名称		計画値			
		実績値			
		単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 引き続き、当該基金の積立目標額の達成に向け、着実な積み立てを行っていく。また、名古屋以西のリニア中央新幹線のルートや駅位置の決定を見据えた中で、基金の積立目標額の見直しについても検討していくに当たり、先行開業区間の関係自治体におけるリニア中間駅周辺の整備内容や事業費負担額等について研究していく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 当該基金の積立目標額の達成に向け、本年度においても約5千万円の積み立てを行った。また、基金の積立目標額の見直しについて検討していくに当たり、先行開業区間の関係自治体におけるリニア中間駅周辺の整備内容や事業負担額等について情報収集を行った。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 リニア中央新幹線亀山駅整備基金に約50,371千円を積み立て、積立残高を約17億5千万円とした。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 リニア中央新幹線亀山駅整備基金への積立により、リニア中央新幹線市内停車駅周辺の整備事業を展開する際の財源確保に繋げることができた。また、基金の積立を確実に行うことで、市内外へのリニア中央新幹線誘致のPRに繋がった。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 財政状況が厳しい中においても、リニア中央新幹線市内停車駅設置後に、駅を中心としたまちづくりを早期に実施するための財源として、着実に積み立てを行っていく必要がある。また、名古屋以西のリニア中央新幹線のルートや駅位置決定を見据えた中で、基金の積立目標額の見直しについても引き続き検討していく必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 引き続き、当該基金の積立目標額の達成に向け、着実な積み立てを行っていく。また、名古屋以西のリニア中央新幹線のルートや駅位置の決定を見据えた中で、基金の積立目標額の見直しを検討していくに当たり、リニア中央新幹線の整備進捗状況を注視しながら、先行開業区間の関係自治体におけるリニア中間駅周辺の整備内容や事業費負担額等について引き続き研究していく。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 着実に基金の積立を行っていくことで、リニア中央新幹線市内停車駅設置後に、駅を中心としたまちづくりを早期に実施することができるとともに、駅誘致に向けた姿勢を内外にPRすることができる。	
対応時期		令和2年度～	

【1次評価者】	総合政策部 政策課 政策調整グループリーダー 大平 守
【最終評価者】	総合政策部 政策課長 笠井 武洋

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	A	A	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		50,371 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	50,371 千円
	令和2年度への繰越額	千円